

【二】

問一 ①

根拠

②

零細

受験番号	
得点	

③

おおぜい

④

顕著

⑤

そこら

問二

日本の歴史は都市という現象にたいして比較的鈍感に無自覚であった

117

問三

I
エ

II
ア

III
ウ

問四 a
ウ

b
イ

問五

X
ウ

Y
オ

問六

古
代
中
国

問七

最初
差
異
性
最後
さ
れ
る
ため

問八

に	都
理	市
解	と
し	い
た	う
社	現
会	象
で	の
あ	問
っ	題
た	性
か	を
ら	自
。	覚
30	的

問九

記	対
述	面
的	す
な	る
文	経
体	験
	観
	察
	す
	る
	能
	力

問一 ①

円滑

②

専念

③

甲斐

④

せっぽう

⑤

あんぎゃ

問二

い
ろ
い
ろ
な
期
待
や
要
請

問三

I
オ
II
イ
III
ア

問四

内
面
に
向
か
う

ため

問五

最初
彼
女
の
外
面
最後
生
き
て
い
た

問六

外
へ
の
適
応
が
よ
す
ぎ
る
から

問七

通常は外界に向けて見せるべき自分の仮面を必要とするのであるが、彼女の場合は常に外への適応がよすぎた。そのため、自分の内界に向かうために鬼の仮面をつけることになった。

出題の意図

「高等学校 学習指導要領 第2章 各学科に共通する各教科」（平成30年3月文部科学省告示）の「第1節 国語」「高等学校学習指導要領解説 国語編」「付録4」（平成30年3月文部科学省告示）における教科の「教科目標」「科目目標」に示された「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」から「書くこと」「読むこと」を出題した。

ただし、本学の入試においては「募集要項」にあるように近現代以降の文章として古文と漢文を出題しないことから、出題に当たっては、高等学校国語科科目のうち、「現代の国語」（共通必修科目）、「言語文化」（共通必修科目）から「近代以降の文章」、「論理国語」（選択科目）「国語表現」（選択科目）を対象科目としている。したがって「文学国語」「古典探究」は対象としていない。各期すべてにおいて、近代以降の評論文・論説文を「読むこと」を中心に据えて「書くこと」を必要に応じて取り入れ、大問2題の出題を基本としている。

教育学部と国際教養学部の「国語」問題が共通であることを踏まえ、評論文・論説文の内容を選択するに当たっては両学部のアドミッションポリシーを参考にしている。各学部のアドミッションポリシーのうち、教育学部における「国際的な視野に立ち、高等学校までの教科・科目や学校の諸活動を通じた学びで身につけた、基本的な学力、知識を有し」ていること、国際教養学部における「人間やその営為に対して幅広い関心を有すること」と「現代社会における課題の発見と解決に積極的に貢献しようとする意欲」を重視して、幅広い専門・学術分野から選択するようにしている。